

マクロ、マイクロ、ナノ 各レベルで物質を制御



クラスターテクノロジー株式会社

次々と新しい複合樹脂を開発

独自の樹脂複合材料の開発製造にはじまり、金型加工、成形、さらには装置開発まで手がけているのがクラスターテクノロジーだ。同社の技術は、マクロ・テクノロジー分野とナノ／マイクロ・テクノロジー分野の二つに分けられる。マクロ・テクノロジー分野において核となるのが、主に絶縁用途に使用される熱硬化性エポキシ樹脂複合材料「エポハード®」だ。

自社開発によって生まれたこの複合樹脂は、セラミック等、従来の素材では成形不可能であった複雑な形状も製作可能にし、この素材を基にした成形母子（がいし）は国内において高シェアを誇っている。

ナノ／マイクロ・テクノロジー分野においても、無機層状化合物と有機物を分子レベルで結合させた「エポクラスター®」を開発。低熱膨張、高摺動といった特長を併せ持つ、精密成形品用の複合樹脂材料だ。現在は、デジタルビデオカメラのシリンダーベースや、デジタル一眼レフカメラのオートフォーカスセンサーのホルダー



等、様々な精密機器の機構部品に姿を変え、提供されている。

安達新産業の東大阪工場として複合成形材料の製造事業を始めて以来、30年以上にわたって培われ、受け継がれ続けてきた同社の技術は、可視領域の成形から分子レベルの微細加工までこなし、多岐にわたる産業機器の製造を支えている。

ピコリットルレベルの 溶液噴射機器

クラスターテクノロジーが誇る、もう一つの主力製品が、単ノズル型インクジェットヘッド「樹脂製バルスインジェクター®」だ。6年以上の歳月をかけて開発されたこの装置は、溶液をピコ（1兆分の1）リットルレベルで噴射でき、現在、多くの大学や研究機関において、繊維、バイオ、エレクトロニクス、環境、エネルギー、半導体等の実用機器として活躍している。

「開発を始めたきっかけは、大手のインクジェットは業務用であり、ナノ粒子をコントロールしようという市場ではなかったからです。しかし難しくなりました。長い間、多額の赤字を注ぎ続けながら頑張ってきたのです」と安達総社長は当時の苦労を振り返る。

3億円をかけた本社内に、わずかな振動にも影響されないように、建物の地下の岩盤にまで柱を通し、その上に研究室を造りナノ計測を可能にしたのも、「何としても実現して社会に貢献したい、従業員や社員に喜んでもらいたい」という思いからだ。

社会の役に立つ事業を

「当社の仕事を投資会社や多くのファン、ベンチャーキャピタルが支えてくれました。融資を受けるのも今を乗り切るためではなく、将来を見通し、社会の役に立つために、こんな事業をしていきたい、でなければならぬのです」――。

ナノテクノロジーという将来大きく発展する分野を扱うと同時に、「日々新たに、社会に役立つ」との経営理念を掲げ、同社は進んで行く。

主な事業内容

開発 金型
製造 微細
加工 精密
製品の開発・製造
ナノテクノロジー関連製品の開発・製造
品質検査
解析・計測 等



安達 稔さん
代表取締役社長

クラスターテクノロジー株式会社

Company
Profile

住所 / 〒577-0836
大阪府東大阪市渋川町4-5-28
創業 / 平成3年4月
設立 / 平成8年7月
資本金 / 12億4,072万1,072円
従業員 / 74名（平成21年1月現在）
TEL / 06-6726-2711
FAX / 06-6726-2715

ISO 9001

全国
18

<http://www.cluster-tech.co.jp/>